

# 考古学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
考古学特論Ⅰ	人類の進化と考古学	2	佐野 勝宏	1	月曜2限
考古学特論Ⅱ	考古学の方法と実践	2	佐野 勝宏	2	月曜2限
考古学特論Ⅲ	先史文化の考古学	2	菅野 智則	2	木曜4限
考古学研究演習Ⅰ	考古学研究史	2	鹿又 喜隆	1	金曜4限
考古学研究演習Ⅱ	考古学の方法と理論	2	鹿又 喜隆	2	金曜4限
考古学研究実習Ⅰ	考古学の調査と資料分析 (1)	2	鹿又 喜隆	1	水曜3限 水曜4限
考古学研究実習Ⅱ	考古学の調査と資料分析 (2)	2	鹿又 喜隆	2	水曜3限 水曜4限

**科目名：考古学特論 I**

曜日・講時：月曜 2 限

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：佐野 勝宏

コード：LM11201, 科目ナンバリング：LJS-HIS619J, 使用言語：日本語

**【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】**

1. 授業題目：人類の進化と考古学

2・授業の目的と概要：この授業では、考古文化の発達と人類進化の関係について学ぶ。人類の各進化段階で起きた、認知、行動、文化、社会の発達について学び、人類の生物学的な進化と文化的発達の意味を理解する。

3. 学習の到達目標：人類の進化史と考古文化の発達史の概要を把握し、考古文化の発達に関する進化論的な意義についての理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 人類の進化史
3. 道具の出現と発達
- 4-5. 火の利用の起源
6. 原人・旧人の出現と拡散
7. ネアンデルタール人
- 8-9. DNA 研究からみた進化史
10. 旧人・新人の交替劇
11. 狩猟技術の発達史
- 12-13. 旧石器時代の芸術
14. 新石器文化の拡散と受容
15. 家畜化の歴史

5. 成績評価方法：レポート [70%]・出席 [30%]

6. 教科書および参考書：教科書は使用せず、授業中に資料を配付する。適宜、参考文献を紹介する。

7. 授業時間外学習：特に興味がある内容に関して、各自参考文献等で理解を深める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

**科目名：考古学特論Ⅱ**

曜日・講時：月曜 2 限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：佐野 勝宏

コード：LM21201, 科目ナンバリング：LJS-HIS620J, 使用言語：日本語

**【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】**

1. 授業題目：考古学の方法と実践

2・授業の目的と概要：考古学の研究は、様々な分析方法を用いて行われる。この授業では、その分析方法と具体的な実践の仕方について学ぶ。いくつかの分析方法は、授業中に受講者が実際に取り組み実践する。

3. 学習の到達目標：考古学で行われる様々な分析方法について学び、各分析方法がどのように考古学研究に活かされ実践されているのか理解する。また、いくつかの分析方法を実践することで、そのやり方を覚える。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
- 2-6. 実験考古学の方法と実践
- 7-10. 3D 考古学の方法と実践
- 11-14. GIS 考古学の方法と実践
15. 遺跡形成論

5. 成績評価方法：レポート [30%]・課題 [40%]・出席 [30%]

6. 教科書および参考書：教科書は使用せず、授業中に資料を配付する。適宜、参考文献を紹介する。

7. 授業時間外学習：特に興味がある内容に関して、各自参考文献等で理解を深める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

○

9. その他：

**科目名：考古学特論Ⅲ**

曜日・講時：木曜 4 限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：菅野 智則

コード：LM24403, 科目ナンバリング：LJS-HIS621J, 使用言語：日本語

**【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】**

**1. 授業題目：先史文化の考古学**

**2・授業の目的と概要：**本授業では、日本列島の先史時代である所謂「縄文時代」における先史文化（縄文文化）を理解することを目的とします。この縄文文化に関する考古学研究は、これまで土器や石器等の遺物が主要な対象となり、研究が進められてきました。しかし、縄文文化を理解するためには多種多様な側面から研究する必要があります。例えば、動植物遺存体の研究からは食生活や周囲の環境、竪穴住居跡や墓などの諸施設の研究からは居住形態や社会構造などの縄文文化の一端を明らかにすることができます。そのほかには、考古学に限らず自然環境に関する研究などの他分野

**3. 学習の到達目標：**(1) 縄文文化に関するこれまでの研究の歴史を理解する。(2) 縄文文化研究における多種多様な視点や研究方法を理解する。(3) 縄文文化にかぎらず広く先史文化一般を理解するための基礎を学ぶ。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

1 回目：本授業の授業の目的と到達目標について説明する。そのほか、論文の読み方等について解説する。

2・3 回目：縄文文化の研究手法。基本的な研究方法に関して解説する。最も基礎的なものには縄文土器の型式学的方法等の基礎的な研究方法について概観する。

4～7 回目：縄文時代研究史について解説する。第 2 次世界大戦前後における縄文文化研究、1980 年代からの新発見による縄文時代研究の進展、近年の新たな展開の 3 段階に分けて、それぞれの時代の研究内容を解説し、研究の視点と方法の変化について理解する。

8 回目：「縄文時代」という枠組みについて解説する。「縄文時代」という時代設定・概念が果たして適切なのか、研究史に関する講義のまとめとして説明する。

9～14 回目：縄文時代を成立期（草創期・早期）・展開期（前期・中期）・転換期（後期・晩期）の 3 期に区分して、それぞれの時期に関して 2 回ずつ、各時期の土器型式や各種遺物等の物質文化、あるいは生業活動を含めた居住形態に関する研究について説明する。

15 回目：縄文文化と北米北西海岸部先史文化における生業活動の差異について、北米北西海岸部における貝塚や湿地帯遺跡の調査事例と日本の事例と比較しながら説明する。その上で、講義のまとめとして、両文化の比較を行い、今後の研究の方向性について解説する。

**5. 成績評価方法：**(O) レポート [60%]・ (O) 出席 [40%]

**6. 教科書および参考書：**教科書は使用しない。参考書は講義中に随時提示する。

**7. 授業時間外学習：**講義内でレポート内容に応じた問題を設定するので、時間外に講義内に提示した参考書などで調べること。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

オフィスアワー：水曜日 16:15～17:15（片平キャンパス・埋蔵文化財調査室）

メールアドレス tomonori.kanno.d4@tohoku.ac.jp

**科目名：考古学研究演習 I**

曜日・講時：金曜 4 限

Semester：1 単位数：2.00 単位

担当教員：鹿又 喜隆、松本 圭太

コード：LM15401, 科目ナンバリング：LJS-HIS623J, 使用言語：日本語

**【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】**

**1. 授業題目：考古学研究史**

**2・授業の目的と概要：**日本考古学を中心に、明治時代以来の考古学研究の流れを整理し、受講学生が各自の研究方向を見出します。例えば、旧石器の編年と製作技術、縄文土器の型式学、縄文集落と社会、農耕社会の成立と発展、古墳文化の特徴、東北地方の城柵官衙遺跡、古代窯業生産と供給、中・近世考古学などの課題があり、受講者各自が具体的な課題を選んで、順次、発表を行います。詳細な文献目録の作成、研究史の画期となった主要業績の解題、基本的な考古学資料の内容理解、調査研究報告書の詳細な検討、そして相互の討論を通して、研究の現状についての認識を深めます

**3. 学習の到達目標：**(1) 日本考古学の研究史の流れを把握し、学史上の画期を整理して理解する。(2) 各自の研究テーマの現状と課題を理解できるようになる。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

この科目（考古学研究演 I）では、対面授業（稀にリアルタイムオンライン授業）です。

毎回、生徒が自分のテーマに沿った資料を用いて発表をおこない、最後にディスカッションをおこないます。講義の内容とスケジュールは以下の通りです。

1. 講義ガイダンス
2. 学生による研究発表と議論
3. 学生による研究発表と議論
4. 学生による研究発表と議論
5. 学生による研究発表と議論
6. 学生による研究発表と議論
7. 学生による研究発表と議論
8. 学生による研究発表と議論
9. 学生による研究発表と議論
10. 学生による研究発表と議論
11. 学生による研究発表と議論
12. 学生による研究発表と議論
13. 学生による研究発表と議論
14. 学生による研究発表と議論
15. 学生による研究発表と議論

**5. 成績評価方法：**レポート [30%]・出席 [30%]・発表と討論 [40%]

**6. 教科書および参考書：**教室にて指示、プリントを配布。

**7. 授業時間外学習：**発表内容は、時間外に各自がまとめる。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

実務・実践的授業

**9. その他：**

研究演習 I、II を通年で連続履修することが望ましい。

**科目名：考古学研究演習Ⅱ**

曜日・講時：金曜 4 限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：鹿又 喜隆、松本 圭太

コード：LM25402, 科目ナンバリング：LJS-HIS624J, 使用言語：日本語

**【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】**

**1. 授業題目：考古学の方法と理論**

**2・授業の目的と概要：**考古学研究の歴史と現状について、各自の関心領域を中心にまとめて発表し、相互の討論を通じて理解を深める。各時代の研究における、型式学と技術、材質研究、編年と地域性、生産と流通、文化変化、環境と生業活動、社会と集団、葬制、集落論など、具体的に課題を選択し、詳細な文献目録を作成し、現在の問題点を的確に把握し、今後の各自の研究指針を追究する。

**3. 学習の到達目標：**(1) 日本考古学研究の現状について、学史の流れを踏まえて問題点を展望し、各自の研究テーマを具体的に追求できるようになる。(2) 近年その内容が非常に多岐にわたる考古学研究の、広がりや深まりを認識し、各自の研究方法を位置づけられるようになる。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

授業は対面型で行います。

毎回、生徒が自分のテーマに沿った資料を用いて発表をおこない、最後にディスカッションをおこないます。講義の内容とスケジュールは以下の通りです。

1. 学生による研究発表①
2. 学生による研究発表②
3. 学生による研究発表③
4. 学生による研究発表④
5. 学生による研究発表⑤
6. 学生による研究発表⑥
7. 学生による研究発表⑦
8. 学生による研究発表⑧
9. 学生による研究発表⑨
10. 学生による研究発表⑩
11. 学生による研究発表⑪
12. 学生による研究発表⑫
13. 学生による研究発表⑬
14. 学生による研究発表⑭
15. 学生による研究発表⑮

**5. 成績評価方法：**レポート [30%]・出席 [30%]・発表と討論 [40%]

**6. 教科書および参考書：**教室にて指示、プリントを配布。

**7. 授業時間外学習：**各自の発表内容は時間外に作成する。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

実務・実践的授業

**9. その他：**

研究演習Ⅰ、Ⅱを通年で連続履修することが望ましい。

**科目名：考古学研究実習 I**

曜日・講時：水曜 3 限、水曜 4 限

セメスター：1 単位数：2.00 単位

担当教員：鹿又 喜隆、松本 圭太

コード：LM13303, 科目ナンバリング：LJS-HIS627J, 使用言語：日本語

**【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】**

**1. 授業題目：考古学の調査と資料分析（1）**

**2・授業の目的と概要：**発掘調査から、出土遺物の処理、資料整理と分析、図面製作、写真撮影、遺物の資料化、そして調査研究報告書の作成に至るまでの一連の作業を通して、考古学の高度な研究方法の実際を修得する。

**3. 学習の到達目標：**考古学資料の実証的研究法を修得し、研究報告書の作成方法を学ぶ。発掘調査実習を通して、調査の計画と実践を学習する。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

この科目（考古学研究実習 I）は、対面講義です。

授業計画

第 1 回：出土遺物の属性入力（観察と計測、入力と統計操作）①

第 2 回：出土遺物の属性入力（観察と計測、入力と統計操作）②

第 3 回：発掘調査実習①

第 4 回：発掘調査実習②

第 5 回：出土遺物の属性入力（観察と計測、入力と統計操作）③

第 6 回：調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築①

第 7 回：調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築②

第 8 回：遺物の実測と製図①

第 9 回：遺物の実測と製図②

第 10 回：遺物の実測と製図③

第 11 回：遺物の実測と製図④

第 12 回：遺物の実測と製図⑤

第 13 回：測定の基礎と機器の操作①

第 14 回：測定の基礎と機器の操作②

第 15 回：測定の基礎と機器の操作③

**5. 成績評価方法：**レポート [30%]・出席 [40%]・受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み [30%]

**6. 教科書および参考書：**教室にて指示。

**7. 授業時間外学習：**夏季に発掘調査を実施する。講義内で課題が終わらない場合には、宿題となる。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

実務・実践的授業

**9. その他：**

研究実習 I・II を通年で連続履修することが望ましい。15 回の講義の順番は、発掘計画に応じて前後することがある。

**科目名：考古学研究実習Ⅱ**

曜日・講時：水曜 3 限、水曜 4 限

セメスター：2 単位数：2.00 単位

担当教員：鹿又 喜隆、松本 圭太

コード：LM23303, 科目ナンバリング：LJS-HIS628J, 使用言語：日本語

**【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】**

**1. 授業題目：考古学の調査と資料分析（2）**

**2・授業の目的と概要：**1 学期に引き続き、考古学研究室による発掘調査資料・収蔵資料に取り組み、実際の研究分析法を学ぶ。発掘調査実習を通して、調査の計画と実践を学習する。実際の遺跡発掘調査による資料の整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また通年において、発掘技術、測量作業、記録法などの実際を発掘調査現場において学ぶ。

**3. 学習の到達目標：**（1）考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。（2）共同研究の意義について、理解できるようになる。（3）考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。（4）発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

この科目（考古学研究実習Ⅰ）は、対面講義です。

授業計画

1. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理（1）。
2. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理（2）。
3. 遺物の観察・記録と図化（1）。
4. 遺物の観察・記録と図化（2）。
5. 遺物の観察・記録と図化（3）。
6. 遺物の観察・記録と図化（4）。
7. 製図・トレース・レイアウトの作成（1）。
8. 製図・トレース・レイアウトの作成（2）。
9. 製図・トレース・レイアウトの作成（3）。
10. 写真撮影（1）。
11. 写真撮影（2）。
12. 写真撮影（3）。
13. 保存処理に関する研修。
14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成（1）。
15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成（2）。

**5. 成績評価方法：**レポート [30%]・出席 [40%]・受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み [30%]

**6. 教科書および参考書：**教室にて指示。

**7. 授業時間外学習：**夏季に発掘調査を実施する。講義内で課題が終わらない場合には、宿題となる。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

実務・実践的授業

**9. その他：**

研究実習Ⅰ・Ⅱを通年で連続履修することが望ましい。15 回の講義の順番は、発掘計画に応じて前後することがある。